

みことばを生きる



— 信仰と経営の交差点で —

「我は道なり真理なり命なり」で神様と出会い、
「我は全能の神、我が前に歩みて全かれよ」で創業し、
「この時の為ではなかったか」にて今献身した

株式会社トマス技術研究所 代表 **福富 健仁**（沖縄）

御言葉の光に照らされて

私は 1988年、23歳の時、人生の意味や目的に強い虚無感を抱き必死に真理を求めていました。その時、聖書を通して響いた神様の声は、明確でした。

「人生の真の目的と目標、それは神様だ。あなたが求めたのはわたしである。わたしが道であり、真理であり、命である。」(ヨハネ14:6)

その瞬間、私は神様と出会いました。まさに魂を貫く光のような体験でした。神様に満たされ、同時に「汝は我に従え」(ヨハネ21:22)との召命を受け、その場でこの身を捧げ、神様のために生きることを誓いました。涙が止まりませんでした。

それから15年、社会人としての歩みの中でも、祈りと御言葉に生き、2003年、私が38歳の時に主は再び語られました。「我は全能の神なり。汝、我が前に歩みて、全かれよ」と。創業を祈り求めていた私は、この御言葉を私への語りかけとして受け取りました。アブラハムが「約束の地へ出て行け」との召命に従ったように、私も「受け継ぐ地へ出て行け」(ヘブル11:8)との召しを被った時、創業こそが主の約束の地だと確信しました。

(株)トマス技術研究所を起業

(株)トマス技術研究所は、『神の栄光と人類の救いのために』と『技術を通じた環境改善』の旗印のもと、環境問題に取り組み、小型焼却炉等の廃棄物処理装置や焼却廃熱利用発電装置を開発・製造しています。廃棄物適正処理や省エネ・地球温暖化防止の等の環境負荷低減・環境改善を通して、地域社会への貢献を目指しています。

そして、創業20年目にしてコロナ禍が襲い、倒産の危機に直面しました。その時、主はエステル記の言葉で語られました。「この時のためではなかったのか」(エステル記4:14)。私は自らの存在意義を問われ、経営者という立場を越えて、今こそ主に全てを捧げる献身の時と示され、会社経営しなが

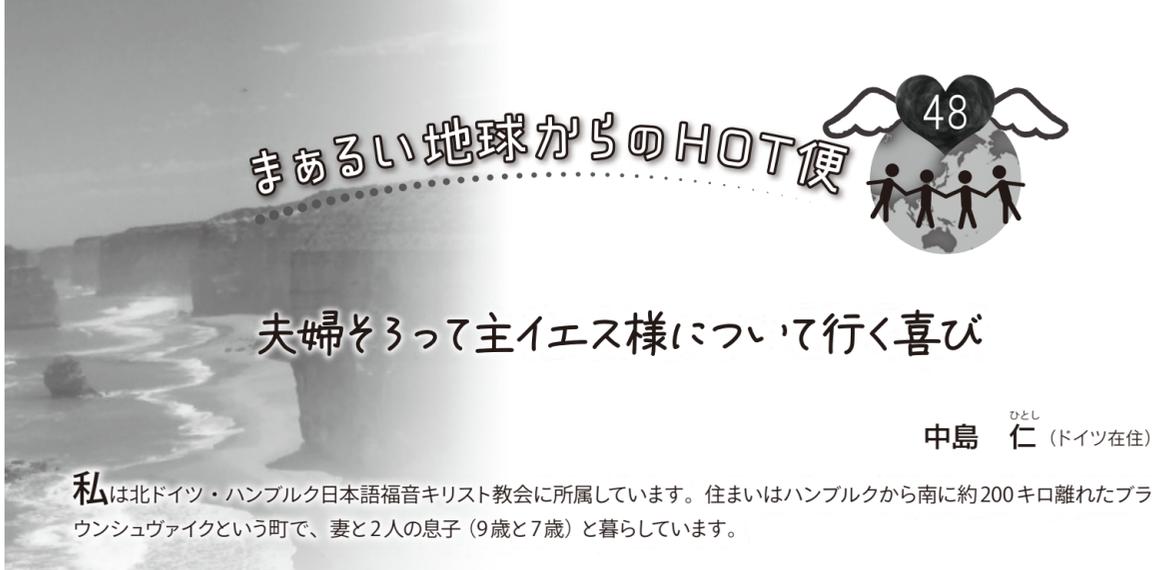
私もJ T J宣教神学校に入学しました。

こうして私は、マーケットプレイズミニストリーという新たな献身の働きを開始し、J T Jでの学びを通して、現場に立つ牧会者としての召命を確信しています。私のビジネスも人生も、すべては神様の栄光と人類の救いのためにあると確信しています。社員の中から、共に働く中で主イエス・キリスト様を自らの神、救い主と信じ告白し、洗礼を受ける人が起こされてきました。その方々と共に、研究所内に「聖トマス教会」を設立し、毎週日曜日の礼拝を守ると同時に、毎日の社内での祈り会を持つようになりました。やがて社員の表情や言動に変化が現れ、心に平安が与えられたと告白する者もいます。取引先や訪問者の中には、その霊的な空気に触れ涙を流す方もおられました。

牧会者としてこの地に立つ

J T Jでの学びは、ただの知識ではなく、私の信仰と召命を深く掘り下げる時間となっています。「牧会者としてこの地に立て」という神様の御声が明確になりました。信仰も経営も、分離せず一体として、神様の栄光と人類の救いのために捧げてまいります。

社員と共に



まあるい地球からのHOT便



夫婦そろって主イエス様について行く喜び

中島 仁 (ドイツ在住)

私は北ドイツ・ハンブルク日本語福音キリスト教会に所属しています。住まいはハンブルクから南に約200キロ離れたブラウンシュヴァイクという町で、妻と2人の息子(9歳と7歳)と暮らしています。

▶20年間、ピアノメーカーに勤務

日本では約10年間ピアノ調律師として勤めた後、ドイツに移住、ブラウンシュヴァイクにあるピアノメーカーで20年間ピアノビルダーとして働いてきました。現在は主に導かれ、在独邦人伝道・教会開拓に携わりつつ、J T J宣教神学校で学んでいます。

妻と結婚し長男が与えられた頃、私たちはブラウンシュヴァイクにも日本人クリスチャンの交わりが与えられるよう祈り、家庭集会を始めました。その後、ハンブルク日本語教会の協力を得て、2022年春から月1回の土曜礼拝が始まりました。

▶家庭集会から始めて50人礼拝へ

現在は公民館を借り、50名ほどで礼拝を捧げています。その多くはノンクリスチャンの独日家庭や駐在家庭、留学中の方々です。14:30から礼拝、その後、交わりの時を持っています。子ども向けプログラムにも力を入れています。キリスト教文化が根付くドイツに来ると多くの方はキリスト教に興味を持ちやすく、福音を伝える特別な機会があると感じています。

▶フルタイム牧師への召命と献身

礼拝が始まった年の夏のことでした。私は高熱で寝込んでいました。夢の中でイエス様の名前を呼ぶと、平安とともにイエス様の臨在を感じました。癒しを期待し「私に一言お願いします。」と願う私にイエス様は、「私が言うべきことは、美音が言う。」とおっしゃいました。美音とは私の妻の名前です。目が覚めたばかりの私に妻は、私が寝言でイエズスと何度もつぶやいていたと言いました。そしてつづけて、「神様からのフルタイム献身への召しじゃない?」と言ったのです。

私にとって奉仕は喜びでしたが、当時は仕事をしながら奉仕を続けたいと思っていました。しかし2024年、主は、勤めていた会社の倒産という試練の中で職を手放させ、目の前で魂の救いの御業を見せてくださる体験を通して、召しの確信を与えてくださいました。現在私はJ T Jの学びと並行し、妻とともにドイツの宣教団体アライアンスミッションに所属させていただき、働きに導かれています。

J T Jの学びの中で、主がいつも時にかかった言葉を与えてくださることに、深く感謝しています。「とにかくついてきなさい。」今の私に主がおっしゃってくださっていることです。これから先も、何が起こるか分かりませんが、主をただ信じて、どんな時も主に従っていきたく願っています。

「人々は言った。『それでは、だれが救われることができるでしょう。』イエスは言われた。『人にはできないことが、神にはできるのです。』」(ルカ18:26, 27)



日光オリーブの里の魅力

キャンプディレクター、J T J講師 **青木 靖**



礼拝堂

日光まごらんど計画

神様からいただいた、新しいビジョンは、日光オリーブの里を親子孫三代で楽しみ、共に神様を賛美し、礼拝できる場所にする「日光まごらんど」と名付けたプロジェクトです。

次世代伝道、キッズミニストリー、娘たちの世代と20年以上続けてきましたが、みな社会人となり、結婚し、わたし自身も孫をもち、最近ではミニストリーの対象に孫世代が加わりました。

孫世代への伝道ミニストリーなど、自分の知る限り初めて耳にしますが、聖書では、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、と三代の祝福を一つに区切りとしています。

子どもたちに大人気のストライダーやキックボードはもちろん、夏のウォーターファイトやユースの夜には欠かせないカードゲーム、世代を超えてチームで楽しめるフィンランド発祥のゲーム“モルック”など、これからも様々な新しいアクティビティーを用意していく予定です。

ぜひお子さん、お孫さんと一緒に、海賊に会いに日光オリーブの里に遊びに来てください。教会のキャンプにはもちろんですが、スモールグループでのキャンプや家族での休息(牧師や働き人は特に)の場所として是非とも用いていただけたらと思います。

日光オリーブの里 ホームページ  YouTube 日光オリーブ海賊団 ちゃんねる 

